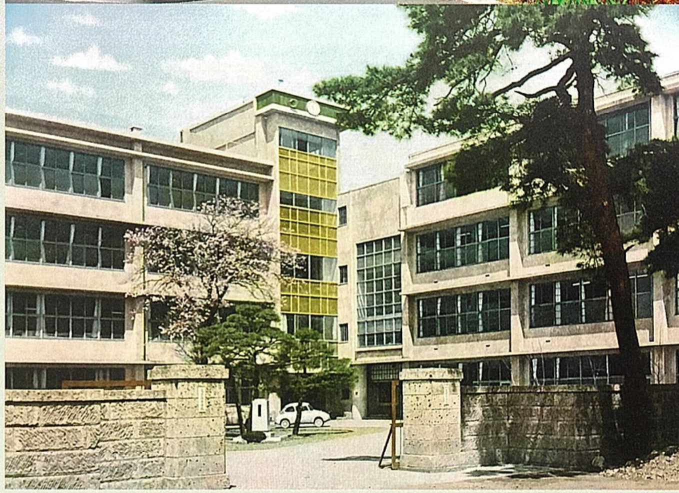
茨城高等学校・茨城中学校
創立100周年記念募金

ご支援のお願い

報恩感謝

令和9年（2027年）に
創立100周年を迎えます



IBARAKI HIGH SCHOOL & JUNIOR HIGH SCHOOL

ご挨拶

茨城高等学校・茨城中学校は、
令和9年（2027年）に創立100周年を迎えます。

茨城高等学校・茨城中学校は、2027年に創立100周年を迎えます。創立者・飯村丈三郎は「報恩感謝」を建学の精神に掲げ、目に見えぬ恩に気づき、社会に貢献する人間を育てる場として本校を創設しました。以来私たちは、その思いを教育の核として守り続けています。

21世紀も4分の1を過ぎた現在、急激な人口減少が日本社会を揺さぶっています。少子化は学校経営の根幹を直撃する難題です。この困難な状況を前に、学校としての教育観、教育力が問われています。私たちは茨高・茨中の教育を研鑽し、学びを深め、選ばれる学校、信頼される学校として進化し続けなければなりません。

本校では伝統と革新が共存しています。100年の歴史の重みと、全国でも最先端の教育実践が融合し、ともに息づいています。「医学コース」はメディカルサイエンスに特化し、医師、医療系人材を育てる探究活動です。約半年間の海外留学を課す「国際教養コース」は、世界に挑戦する心を育て、真のグローバル人材を育成します。「atama+」は、AIが一人ひとりのつまずきの原因を探り、最短で理解に導く、究極の個別最適化学習プログラムです。他にも数々の、質の高い有意義な知的体験が、日常的に生徒たちの課題発見能力を高め、レジリエンスを養い、学びと成長の喜びをもたらしています。

創立100年の節目にあたり、本校は次の100年に向けた大規模な教育環境整備に着手します。学習支援センター（仮称）を中心に、ICT化の向上、教育施設の充実を進め、生徒たちが未来を切り拓くための環境を整える計画です。その実現には、多くの皆さまのご支援が不可欠です。

「報恩感謝」の精神は、受けた恩を次世代に手渡す循環を生みます。どうか本趣意書の主旨にご賛同賜り、茨城高等学校・茨城中学校の新たな100年をともに築いてくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年1月吉日

実行委員会

茨城高等学校・茨城中学校創立100周年記念事業 実行委員会

会長

- 寺門 祐児（高・S50卒）学校法人茨城理事長

副会長

- 大津 順一郎（高・S45卒）高校同窓会会長
- 佐々木 幸一（高・S49卒）中学同窓会会長
- 鴨志田 剛（高・H4卒）PTA会長
- 後藤 直樹 蒼穹会会長
- 梶 克治（高・S58卒）校長

顧問（五十音順）

- 飯村 直子 創立者・子孫
- 大谷 明（高・H3卒）ひたちなか市長
- 大畠 章宏（高・S41卒）元国土交通大臣
- 加藤 浩一（高・S36卒）元水戸市長
- 田山 東湖（高・S37卒）茨城県議会議員
- 種田 誠（中・S36卒）前理事長
- 常井 洋治（高・S46卒）茨城県議会議員
- 豊田 茂（高・H2卒）茨城県議会議員
- 橋本 昌（中・S36卒）前茨城県知事

専門委員会（委員長を記載）

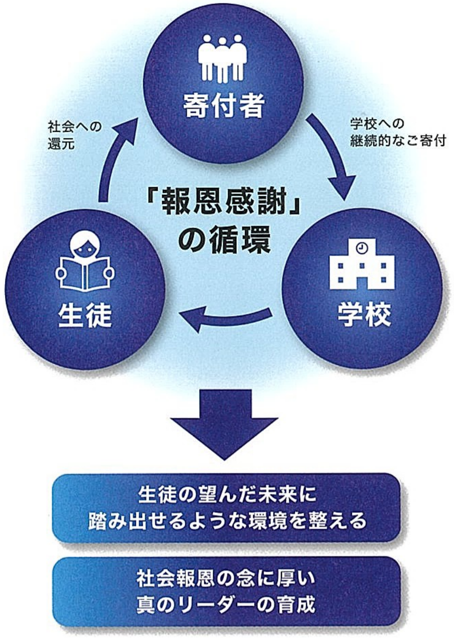
- 梶 克治（高・S58卒）総務委員会委員長
- 照沼 毅（高・S47卒）広報委員会委員長
- 佐々木 幸一（高・S49卒）募金委員会委員長
- 宮田 雅史（高・S50卒）建設委員会委員長
- 加倉井 東（高・S54卒／教員）記念誌委員会委員長
- 齋藤 俊幸（高・H15卒／事務長）式典・行事委員会委員長

参与（職別・五十音順）

- 法人評議員 大山 誠二郎 常陽銀行執行役員
- 法人評議員 小原 宜弘 祇園寺住職
- 法人評議員 渡辺 勝 茨城新聞社社長
- 法人監事 片岡 宗厳（高・S60卒）
- 法人監事 中本 邦彦（中・S42卒）
- 法人監事 渡辺 茂（高・S45卒）

寄付募集をする意義

茨城高等学校・茨城中学校は寄付者の志と支援を受け、「報恩感謝」を核にした先進的な教育環境を整えます。そこで育つ生徒は、世界と地域の課題を見抜き、人と知をつなぎ、行動で解決へ導く「社会報恩の念に厚い真のリーダー」へ成長します。彼らが社会に還元する新しい価値や連帯は、次の世代への恩となって学校と寄付者のもとへ循環し、再び教育を推進します。この善意のループを拡大することこそ、今、本校が寄付募集を行う最大の意義です。



茨城高等学校・茨城中学校が求める生徒像

- 建学の精神「報恩感謝」に共鳴し、社会や他者のために尽力できる生徒
- 高い教養と豊かな人間性にもとづく人間的成長への意志を有する生徒
- 知的好奇心に富み、生涯を通じて学び続ける意志を有する生徒
- 多様な価値観を認め合い、仲間との協働を通じ創造的活動を実践できる生徒
- 母校の歴史と伝統を重んじ、弘道館から受け継ぐ文武不岐の実践を志す生徒

教育方針

建学の精神

「報恩感謝」

教育目標

社会報恩の念に厚い
真のリーダーの育成

校訓

- 真理と正義を愛する
- 強健な身体と不屈の精神を養う
- 協同友愛の念を厚くする

創立者・飯村丈三郎先生について

創立者
飯村 丈三郎

飯村丈三郎は、政治・経済界のみならず教育界にも多大な足跡を残しました。1926年、資金難に陥った茨城県育才会の再建を託され、「報恩感謝」の信条の下、当時、社長を務めていた「いはらき新聞社」を拠点に寄付募集を展開し、目標額の6割近くを一人で集め原資を蘇生させました。さらに水戸藩校弘道館の歴史を継承する水戸学院を拡充し、1927年、わずか3週間という異例の速さで茨城中学校設立認可を獲得。「報恩感謝」を建学の精神として掲げ、校主として校舎資金から運営費まで自ら寄付して開校に導きました。公利公益を体現し、郷土教育の礎を築いた人物です。茨中は当時の県立校に劣らぬ優れた教育の実践を目標に掲げ、学校経営を授業料や補助金で賄う一方、不足分は丈三郎が負担する仕組みを整備しました。苦学の若者に学資を、郷学の志に学窓を開いたその献身は、地域社会に光を灯し続けたと、今も語り継がれています。

参照：「茨城近代化の父 飯村丈三郎の生涯」 茨城新聞社編

鼎談「報恩感謝」

「学んでよかった」と誇れる、次の100年を目指して

茨城高等学校・茨城中学校の根底に流れる精神「報恩感謝」。その理念は今後どのように受け継がれ、変化する社会にどのような価値をもたらすのでしょうか。理事長、校長、卒業生それぞれの視点から、語っていただきました。

学校法人茨城
理事長
寺門 祐児
TERAKADO, Yuji

Profile
茨城高等学校卒業。教育分野とは異なるバックグラウンドを持ちながら、学校法人運営の責任者として、教職員が能力を最大限発揮できる環境づくりや、伝統ある建学の精神の継承に尽力している。

茨城高等学校・茨城中学校
校長
梶 克治
KAJI, Katsuharu

Profile
茨城高等学校卒業。長年にわたり本校教員として勤務。生徒一人ひとりの個性と向き合う教育を信条とする。「伝統と革新」を掲げ、予測困難な未来を生き抜く力を育むための教育改革に挑戦している。

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック
代表取締役社長
小島 耕
KOJIMA, Koh

Profile
中学・高校の6年間を本校で過ごす。在学中はテニス部に所属。卒業後、約30年の社会人経験を経て現職に就任。「報恩感謝」を座右の銘とし、地域活性化やスポーツを通じた人づくりに情熱を注ぐ。母校との連携や後輩支援にも積極的に取り組んでいる。なお、2025シーズンにおいて、水戸ホーリーホックはクラブ史上初のJ2優勝、そしてJ1昇格が決定。

社会経験を重ねて実感する「報恩感謝」の言葉の重み

梶 本校の創立者である飯村丈三郎先生は、「この学校は報恩感謝の念を持って創立した」と第1回入学式で訓示されました。報恩とは他者の恩に報いること、感謝はその恩に感謝を向けること。つまり、ベクトルが「他者」に向いた言葉なんですよね。私たちは日常の中で、目に見えない多くの他者との関係性に支えられて生きています。その恩に感謝し、今度は自分が社会のために役立つ行動をする。近年、世界的に利己的な考えや分断が広がる中で、他者との繋がりを求める本校の精神は、今こそ社会を見直す大きな「灯」になると思うのですが、お二人の考えはいかがでしょうか。

小島 実を言うと在学中は、「先生がまた何か言ってるな」程度にしか感じていませんでしたね(笑)。しかし社会人となって様々な経験をさせていただき、家庭を持ち、親となって感じるのは、「自分は一人ではとてもここまでは来れなかった」という思いです。いつも誰かに助けられながらやってこれた。「ああ、ありがたいなぁ」と。この気持ちを突き詰めると、やはり母校の建学の精神にたどり着くんですよね。私は6年前に水戸ホーリーホックの社長に就任した際、就任の挨拶に「報恩感謝」という言葉を入れました。今はテクノロジーが進化し、一人で何でも完結できるように錯覚しがちな時代です。だからこそ、スポーツの世界もそうですが、「誰かのおかげで生かされている」という気づきと「その恩に報いたい」という思いの連鎖はとても重要なのではないかと思います。

寺門 小島社長の話には全く同感です。私も在学中は単なる四字熟語くらいにしか捉えていませんでした。しかし年齢を重ね、人生経験を積むにつれて、その言葉の受け止め方が深くなっていくのを感じています。私が理事長を引き受けたのも、前任者からの「報恩感謝の気持ちを母校のために」という言葉が胸に響いたからです。どんなに世の中が変わっても、この精神は本校の土台として100年後も持ち続けていたいですね。

確たる伝統を踏まえ、学びのさらなる革新へ

寺門 先ほど「どんなに世の中が変わっても」と申しましたが、学校運営という視点で見ると、やはり少子化という社会変化は避けて通れない大きな課題です。その中で学校の生命線となるのは、いかによい生徒とよい先生に集まってもらうかということ。そして、社会の変化、特に国際化に対応していく力を養うことです。本校では国際教養コースを設け、高校2年時に半年間のニュージーランド留学を実施するなど、生徒に国際的な視野を身につけてもらう取り組みを行っています。帰国後の生徒の報告を聞いたりすると、一皮も二皮もむけて大きな成長を果たしており、その逞しさには驚かされるばかりです。

梶 そうですね。社会の変化は激しく、AIやデジタル革命、気候変動などの面からも未来が見通せない時代です。今、最先端の知識を教えても、彼らが大人になる頃には古くなっているかもしれない。だからこそ、私は「学び続ける意思」や「考えることをあきらめない思考力」がこれからの子供たちには重要だと考えています。こうした力を育成するため、本校では「伝統と革新」というコンセプトを打ち出し、常に新たなチャレンジを続けています。例えば、2024年から導入したAI教材「atama+(アタマプラス)」もその一つです。AIが生徒一人ひとりのつまずきを分析し、最適化された学びを提供することで、基礎学力を最短時間で固めていく。そうして生まれた時間を、私は探究活動や趣味などに充ててほしいと考えています。インプットの質を高めることで、より深い思考力とアウトプット力が養われるからです。

小島 「伝統と革新」は、これからの時代に不可欠な視点ですね。人口減少社会において、伝統が持つ意味やコミュニティの力はより重要になるのではと思っています。一方で、AIなどの新たなテクノロジーとどう付き合っていくかも避けては通れませんよね。学校経営の皆さんが頭を悩ませながらも、他に先駆けて決断されていることに感銘を受けました。今の生徒さんたちを見ていると、僕らの時代よりもスマートで立派に見えますが、そうした学校そのものの挑戦が、彼らのチャレンジを後押ししているんですね。私の中学・高校時代もそうでしたが、「失敗するまでやってごらん」という先生方の懐の深さや、機会を与える教育方針は今も変わっていないんだなぁと感じています。

自ら未来を変えていく、生徒たちのパワーをつなぐために

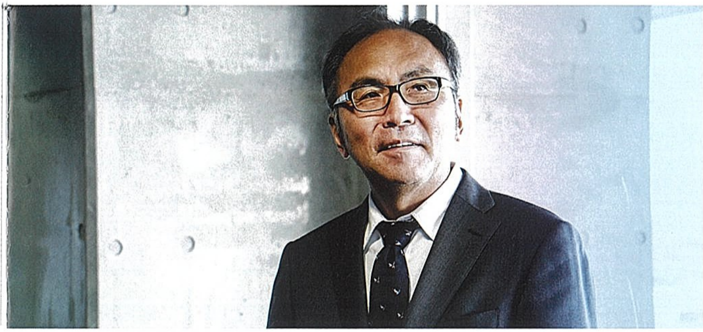
梶 加えて本校で重要視しているのが、教育のリソースを学校だけでなく地域社会にも広く求めている点です。例えば、国際教養コースの生徒たちが中心となって開催した「水戸ティーンズフェスティバル」。これは生徒たちが商業施設や行政と交渉し、他校の生徒やプロミュージシャンも巻き込んで作り上げたイベントです。また、ユニクロと連携して子供服を開発途上国に届ける活動や、盲学校との交流、地元ローカル線の利用促進プロジェクトなど、生徒自身が社会課題を発見し、行動するプログラムが増えています。

小島 水戸ティーンズフェスティバルは弊社の目の前で開催されていて、そのエネルギーには圧倒されました。高校生だけであれだけの企画・運営ができるのはすごいことですし、そのパワーが地域活性化という正しい方向に向いているのが素晴らしい！ 僕たち大人が生徒に何かを教えるというより、逆に彼らの姿から学ばせてもらうことの方が多いです。水戸の街も、こうした若い力が循環していけば未来は明るいと思います。たとえ彼らが世界に飛び出しても、いつか戻ってきたくなるような魅力ある地域を作らねばと、責任を感じます。

梶 小島社長のような卒業生が社会で活躍し、学校と関わってくれることは、生徒にとって一番の刺激になるんです。今後も社会を知る様々な先輩の話を聞く「出前授業」や、企業とのコラボレーションプログラムも積極的に増やして、小島社長が感じたような「自ら未来を変えていくパワー」を生徒たちに育んでいきたいですね。

小島 期待しています！ 私が茨城に戻ってきた際、多くの同窓生に助けられました。学校時代は接点がなかった先輩でも「イバコー出身か、なら助けてやろう」と言ってくださる。そして「自分も先輩に助けられたから、その感謝を後輩に返すんだ」と。この報恩感謝の連鎖、縦の繋がりは本校の大きな財産と言えるのではないでしょうか。卒業生の皆さんにも、ぜひこの「報恩感謝の輪」に加わって、その輪を広げてほしいですね。私も微力ながら、その繋ぎ役になれればと思っています。

寺門 本当に心強い言葉です。生徒たちが卒業後に「あの学校で学んでよかった」と思える学校であり続ける。それが本校の使命です。本校は100周年という節目を迎えますが、伝統を守りながらも、生徒たちのために果敢に革新を続けていく。そんな私たちの挑戦をぜひ応援してほしいと思います。



History of IBARAKI HIGH SCHOOL & JUNIOR HIGH SCHOOL

茨城高等学校・茨城中学校 100年のあゆみ

創立期

1927（昭和2年）

財団法人茨城中学校が設立されました。当時の生徒募集は1学年約100名、2学年約50名の募集を行い、第1回入学式には1年生160名、2年生47名が入学しました。

生徒募集
第一學年 約百名
第二學年 約五十名
水戸市外常磐村松本
茨城中學校
水戸學院

戦中期

1941（昭和16年）

戦争に入ると、学生も茨中学徒勤労隊とし緑岡村本郷へ出動し、稲刈り、麦蒔き、耕起に参加。昭和19年には学校工場化通達により、茨中は日製日立工場に指定。昭和20年には水戸大空襲。本校はこれを免かれました。

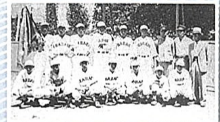
1956（昭和31年）

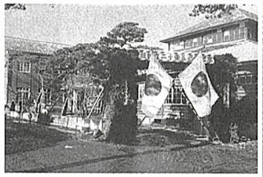
昭和32年、新校歌誕生。野球部が昭和31年秋季関東大会県予選で優勝。レスリング部、柔道部、ボクシング部が国体出場など輝かしい成績を残しました。
また、新校舎、体育館が完成。文化祭（いばら祭）や水泳大会（県営プール）を行いました。創立者丈翁像や前庭の青年像の除幕式もありました。

戦後期

1946（昭和21年）

昭和23年に茨城中学校を茨城高等学校と改称し、茨城中学校を併置。昭和24年には昼休みと放課後、校内売店でパンを販売しました。昭和27年に新校舎竣工、創立25周年記念式典を開催。





草創期

1930（昭和5年）

第1回卒業式を迎えます。（卒業生35名）昭和7年には校歌が誕生。昭和13年には野球部が県大会初優勝し、この年、応援歌が誕生しました。
また、校内体育競技会実施など、この頃から「学習と運動の両立」を目指していました。

1972（昭和47年）

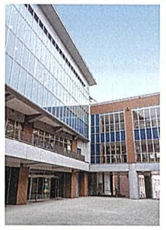
昭和47年に文化祭PRをかねて市内仮装行列を行いました。昭和52年には創立50年目を迎え50周年記念式典を開催。鈴木勝己氏の講演や音楽鑑賞会（東京フィルハーモニー交響楽団）、植村直己氏講演会（極限への挑戦）などスポーツだけではなく、多くの文化にふれた時期です。

1995（平成7年）

平成7年に男女共学、中高一貫制度を導入。平成9年には新校舎・7号館、第2体育館・屋内温水プール、アリーナが完成し更に施設が充実しました。
生徒が充実した環境で学習できるように平成14年に全教室に冷暖房を完備。
長い歴史の中で環境は大きく変わりましたが、「報恩感謝」の精神は今も昔も変わりません。

2011（平成23年）

新校舎竣工



2024（令和6年）

創立100周年にむけて100周年事業計画を策定。
11月より創立100周年記念募金を開設。

2027（令和9年）

創立100周年。
学習支援センター（仮称）を開設予定。

募金の趣旨

募金の目的：創立100周年記念事業の実現

1 新しい教育を創出する学習支援センター（仮称）の新築

― 学びの未来を開く「知の交差点」―

学習支援センター（仮称）を新築し、個別最適化学習と協働探究、AI活用、地域連携を一体化。世界へ羽ばたく生徒の成長循環を生み出し、持続可能な社会に貢献します。

2 グローバル教育・探究活動・ICT教育の推進

― 世界とつながる「探究アリーナ」―

半年留学を核とするグローバル教育、課題解決型探究、ICTを掛け合わせ、生徒が国境・世代を超えて学び合う環境を整え、社会報恩の念に厚い真のリーダーを育みます。

3 教育施設の整備・拡充

― 躍動する「学びのキャンパス」―

教室・実験室・体育施設・ICT基盤を刷新し、知的刺激と安心安全が共存する学習空間を創出。生徒と教員が挑戦を重ね、地域とともに新たな価値を創造します。

4 各種周年記念事業（記念式典、シンポジウム、記念誌・会報の発刊）

― 百年を刻み、次代へ「記憶と対話の舞台」―

記念式典・シンポジウム・記念誌・会報を通じ、卒業生・地域・寄付者の知恵を結集。歩みを継承し未来像を共有することで、報恩感謝の輪を次の百年へ広げます。

募金の名称	茨城高等学校・茨城中学校創立100周年記念募金
募金目標額	**3億円**（上記目的の実現のために必要な金額です。）
募金の期間	令和5年（2023年）11月1日～ **令和10年（2028年）3月31日** ※同窓会会員には募金案内を毎年配布いたします。
募金の金額	個人／ **1口 5千円**（2口以上をお願いいたします。） 法人・団体/特に定めておりません。

寄付金活用例紹介：「atama+」について

「atama+」はAI技術を活用した個別学習デジタル教材です。そのシステムは、生徒の学習履歴をAIがリアルタイムで解析、つまずきの原因を特定し、その理解度に応じた一人ひとりに最適なカリキュラムを作成、問題の提示や解説を行うというものです。その導入の最大の意義は、生徒たちの「分からない」を放置せず、彼らが自分のペースで確実に基礎を固め、理解を深めていくことが可能になるという点です。また、教師サイドとしても、それまで補習に費やしていた時間と労力を、より応用的な学習指導や探究的な学びの支援に振り向けることが可能となり、高度な理解や深い思考へと導く教育が実現します。

「atama+」は①基礎学力の底上げと定着、②主体的・継続的な学びの醸成、③応用的で高度な学習の実践、④探究的で深い思考力の育成、などの相乗効果を生み、少子化で学力分布が広がる状況の中でも、一人ひとりを丁寧に支援する、誰一人取り残さない学習環境を実現させます。

現在、寄付金で建設を予定している学習支援センター（仮称）は、「atama+」を利用した学習の拠点として、生徒たちに新たな学びの機会をもたらすことになります。

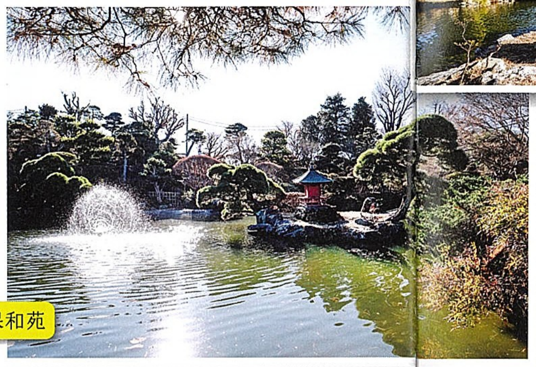
寄付者への顕彰

顕　彰	募金累計額が **15万円以上の個人・50万円以上の法人・25万円以上の団体** の方々には **寄付者銘板** を作成し、新築の学習支援センター（仮称）内にご芳名を残します。
記念品	**毎年1万円以上** の寄付者には **100周年記念小冊子**（全5巻）を贈呈いたします。 ※小冊子の内容は毎年変わります。 ※累計5万円以上の寄付者には全巻贈呈いたします。 第1巻 丈翁の生い立ち 第2巻 飯村 丈三郎と帝国議会 第3巻 飯村 丈三郎と美術 第4巻 丈翁と実業界 第5巻 丈翁と教育界（全巻の索引付き） 第1回配本 第1巻表紙 （高校3年・佐藤凛さん制作）
領収書	翌年 **1月中旬** に発送予定です。 （ご入金の時期によっては、上記日程に間に合わない可能性があります。） ※記念品と一緒に発送いたします。

現在の学校周辺情報

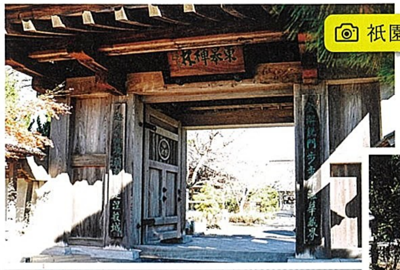
野球部グラウンド

ランニングコース



保和苑

シュール洋菓子店



祇園寺

水戸八幡宮

那珂川河川敷

バス停（末広町二丁目）

バス停（茨城高校入口）

100周年コンテンツ紹介動画

https://www.ibaraki-jsh.ed.jp/about/anniversary/100prproject

100周年PRプロジェクト ▶

PR動画クランクアップ！
公開予告篇①

PR動画クランクアップ②

PR動画 本編公開！
豪華2本立てはこちらから！

毎年10月3日にカウントダウン
新聞広告掲載！

寄付者の声

関 正樹
関彰商事株式会社
代表取締役社長

茨城高等学校・茨城中学校の創立100周年に際し心よりお祝い申し上げます。「報恩感謝」の精神を柱とし県内で活躍する多くの人材を育てられたことに心より敬意を表します。

幡谷 史朗
茨城トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長

入学から50年が経過しました。同級生とは、今でも楽しくお付き合いをさせて頂いております。瞼を閉じれば、建て替え前の校舎が隅々まで甦って参ります。茨城中学校での3年間は、私にとって一生の宝物です。これからも、母校の発展を応援させて頂きます。

小宅 雄一郎
医療法人社団讃和会勝田整形外科医院
理事長

母校創立100周年を迎えられたことを、心から嬉しく思います。校訓「報恩感謝」のもと、私と娘二人、親子三人がこの学び舎で過ごし、多くの出会いと支えをいただきました。その感謝の気持ちを次の世代へつなぎたいとの思いから、寄付をいたしました。後輩の皆さんの歩みに、ささやかでも寄り添えれば幸いです。

税制上の優遇措置

茨城高等学校・茨城中学校への寄付金は、税制上の優遇措置を受けられます。

減免措置

「領収書」（法人の場合は「領収書」と「特定公益増進法人であることの証明書」(写)）を添え、当該年度の確定申告の手続きをお取りください。

1. 個人の場合

1 所得税控除

「①税額控除」または「②所得控除」のいずれかの制度を選択可能

（個人の所得状況に応じ、一定の限度額があります。）

①税額控除制度 寄付金額※1から2,000円を差し引いた額の40%に相当する額が、当該年の所得税額から控除されます。所得税率に関係なく、所得税額から直接控除されるため、多くの場合において所得控除よりも減税効果が大きくなります。

（寄付金の額※1－2千円）×40% ＝ 寄附金特別控除額※2

※1 その年の総所得金額等の40%が上限　※2 所得税控除額は、その年の所得税額の25%が上限

②所得控除制度 寄付金額※1から2,000円を差し引いた額が当該年の所得から控除されます。

2 住民税控除

▶県民税（茨城県）：**（寄付金の額 － 2千円）×6% ＝ 寄付金控除**

※茨城県以外につきましてはお住いの都道府県にお問い合わせください。

▶市民税（水戸市）：**（寄付金の額 － 2千円）×4% ＝ 寄付金控除**

※県内の水戸市以外につきましては茨城県ホームページをご覧ください。

▶ https://www.pref.ibaraki.jp/somu/zeimu/kikaku/faq/siteikifukin/top.html

2. 法人の場合

▶特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額

（資本金×0.375%＋当該年度所得×6.25%）×1/2

▶左記を超えた分は一般寄付金として損金算入できます。

（資本金×0.25%＋当該年度所得×2.5%）×1/4

個人情報取扱 ご寄付により取得した個人情報は本募金に関する業務にのみ利用させていただき、守秘義務を厳守いたします。

申込方法

1. 個人の皆様

①銀行・郵便局でのお振込 同窓会会員には払込依頼書をお送りします。

※一般の方は募金申込書をホームページよりダウンロードして本校にご提出ください。必要書類をお送りします。

▶ https://www.ibaraki-jsh.ed.jp/wp-content/uploads/2023/11/100bokin_kojin.pdf

②クレジットでのお振込 右記にアクセスしてお申し込みください。▶ https://salat.club/fee/ibaraki/

※ご利用には会員番号が必要です。
※一般の方は上記募金申込書をご提出後にご利用ください。

2. 法人・団体の皆様

募金申込書を下記ホームページよりダウンロードして本校にご提出ください。
必要書類をお送りいたします。

▶ https://www.ibaraki-jsh.ed.jp/wp-content/uploads/2023/11/100bokin_dantai.pdf

茨城高等学校・茨城中学校
創立100周年記念事業実行委員会

〒310-0065 茨城県水戸市八幡町16-1
Tel.029-221-4936 Email:iba100th_aniv@ibaraki-jsh.ed.jp
https://www.ibaraki-jsh.ed.jp/about/anniversary

100周年記念サイト▶

2027年に創立100周年を迎えます